職業選択に悩む若者へのメッセージ
—進路追跡調査35年の軌跡から—

フリーターやニートが若年就業問題の焦点となり、雇用政策上のウエートも高くなってきている。政策の重点は「人間力強化」といった先輩からの視点だが、かつて就職に悩んだ大人が、同じ目線から自分が歩んだキャリアを伝える所作も不可欠だろう。自らの経験を振り返って、大人はメッセージとして何を伝えることができるのか。研究報告書「個人のキャリアと職業能力形成—進路追跡調査35年の軌跡—」を基に特集する。

人はどのようにキャリアを築いてきたか—35年間の歩みと職業を通じた成長

JILPT統括研究員 奥津真里

1. はどのように
仕事を選び、仕事につていくのか

(a) 学校を卒業すること
日本では、人は学校を卒業すると就職して社会人になり、自立していくもう一つの重要な生活の仕事インターナーサーが問題にされた時代もあった。良好な雇用状況の時に学校卒業ともに就職するための人材を育成するためには、技術力、学業力と就職の二つの条件が挙げられる。一方で、非雇用者の比率が高まっている時代では、若者を雇用するための策を講じる必要がある。若手の雇用を確保するためには、人材を育成するための施策が求められている。

(b) 就職した後
学校を卒業した後の仕事を選ぶことは、就職後の就職状況に大きな影響を与える。一般的には、就職活動の前に就職先を決める人が多いが、就職活動の前に就職先を決めることが求められる。若者の雇用のためには、就職活動の前に就職先を決める人が多い。就職活動の前に就職先を決めることが求められる。若者の雇用のためには、就職活動の前に就職先を決めることが求められる。
特集 職業選択に悩む若者へのメッセージ

1. 個人の500年間を追跡した実証的研究の目的

その後の日本、経済社会の多くの面で著しい変化が見られる中、産業構造や職業構造の変化、情報化に伴う職業選択、企業構造を理解するための研究が重要である。今後、これらの変化を踏まえた研究が進むことが期待される。

2. 20世紀にわたる日本経済の変化

20世紀の日本経済は、産業構造の変化、雇用制度等の変化と、経済の急激な膨張と縮小、産業や職業の構造変化、雇用制...